心のまちづくり

“こんなおもちゃが早く見つかればよかった”

妹の夫はヘビースモーカーだった。

「嫌煙権」なんて権利はないと、うそぶいて世の中の風潮に逆らうように煙草を止めなかった。

果たしてその結果は「喉頭癌」として表れた。

手術は成功して元気になった。

しかし声は永遠に失われてしまった。話をするのが大好きでいつも一席ぶつような話し方で喋り捲っていたのに。

メモ用紙とペンをおき、自分の言いたいことを書いていく、言いたいことがたくさんありすぎて、字は乱雑になるし意味は取れにくい。

それでも彼は一生懸命自分の意思を伝えようとして書きなぐる。痛ましくて見ていられなかった。

やがて「癌」が再発し入院した。

病院でも妹は割合聞き取れていたようだったが。

私は30センチ四方くらいの板目紙に50音と濁点、半濁点の記号などを書き込んだものを作って持っていったが、どのくらい役に立ったか、間もなく帰らぬ人となってしまった。

亡くなって1年ほどしたとき、私はおもちゃ売り場で、私の作ったような形のおもちゃがあり、文字を押すとその音が出るのが売られているのをみつけた。

私はああこれがあのとき、あったらと今でも買いたいような気持ちでいつまでも眺めていた。

記：牧戸富美子

会員便り

「北清水にこんな美しい梅林が」

北清水にこんな美しい梅林がありました。

2月中旬、安岡寺地区を散歩していたら、こんなダイナミックな景色に巡り合わせました。

北清水小学校の「心のふるさと」園です。

あちこちに有名な梅林はありますが、見上げる梅林は初めてです。

その上、学校と言えば「桜」がつきものですのに、斜面を利用した梅林というのも趣のあるものです。

校門前の坂道脇にはつわぶき・水仙・木瓜の花が美しく咲いていました。

生徒たちも手伝っているのでしょうか？ これからも毎年眺めに来ます。

頑張ってください。

本記事は、「高槻ええとこグロブ」でも見て頂けます。

記・写真：上村サト子

熊野古道中辺路小雲越え「修験道をちょっと味わって」

宿泊地のマンモスホテル「浦島」から専用船で勝浦の本土に戻ってくる。

昨日の勝浦から北へ熊野那智大社、青岸渡寺に向かう約2.5キロのコースは修験者が吉野に詣でる修験道でもある。

今日は続きの熊野本宮大社の手前12Kmのやはり修験道小雲越え（こぐもごえ）のコースである。その名は山の上より小さい雲がすくえると言われるくらい、峠が高く、難所らしい。

歩き始めは熊野川の支流の赤木川を渡る小和瀬の渡し場跡からである。今は静かな川面を見せているが、昔は時に荒れて難儀な場所だったそうだ。橋を渡り、民家の横の石段を登って、山道をひたすら登り続ける。

到着した桜茶屋跡からの眺めは素晴らしかった。まさに吉野三千峯が目の前に現れる。

対岸に見える尾根の中の高い峯は修験者が修行する一つだとか。今日の女性の語り部は那智大社副住職と吉野へのこの道を共にした事があり、それはそれは速足で、無駄なく、祈り三昧のものであったと話される。

登りはさらに続く。途中いきなり小石で築かれた「賽の河原地蔵」があらわれた。私も帰りまでの無事を祈って、さらに小石を一つ積み上げた。

「散華、散華・・・」、「六根清浄、六根清浄・・・」と掛け声をすると不思議なことにきつい登りの息切れも整ってくる。

またや急に視界が開けて、こちらにも吉野三千峯がひらけ、百間ぐら地蔵が見守っている。「ぐら」とは高い崖の意で、眼下に「グラッ」とくる崖っぷちが見える。

万才（ばんざ）峠から松畑茶屋跡から請川のバス停の立て札がみえると、私たちのバスも待っていてほっとした。

今日も無事歩いた。

これぞ熊野権現のご利益。

バンザ～イ！

記・写真：上村サト子

東大寺二月堂 修二会に感動

平成27年と28年、お知り合いが修二会（しゅにえ）に招待してくれました。修二会は、お水取りとも呼ばれ、東大寺で毎年行われている不退の行法です。

僧侶たちが世の中の罪を一身に背負い、一般の人々に代わって苦行を引き受け実践し、二月堂の本尊「十一面観音」に国家安泰等を祈る祈願法要です。

期間は2月20日～3月15日で、2月中は別火といって支度期間で、3月に入ってから本行となり、3月12日の真夜中に行われるのが「お水取り」です。

現役時代、若狭に長期出張しているとき、毎年3月2日に行われる小浜市神宮寺の「お水送り」は知っていたのですが、昨年奈良に春の訪れを告げるこの法要を一目見ようと出かけました。その神秘的な魅力に引かれて今年も観覧させて頂きました。

記・写真：大岡成一

お水取りは真夜中の静寂な中で行われる厳格な行事です